

食事場面での親子の会話

子どもの食生活は、乳児から幼児、そして小学生になっても母親にとっては大きな課題である。

そこで、食事場面を設定して「たとえば、嫌いな肉や野菜をどうしても食べずに残します。こんなとき、あなたはどのように子どもに実際に言い、そのときの本音(正直な

感情)はどうだったか。また、子どもは何と言って、実際の態度や行動はどうだったのか」を四つに分けて記述してもらった。

自由記述の内容を分類して集計した結果が表2-3である。この設問への回答率は90.0%で、子どもに何とかして食べてもらいたい母親の思いや工夫が記述に込められていた。

●表2-3 食事場面での親子の会話

あなたは(実際に言葉で)と言った	%	そのとき、あなたの本音は()であった	%
[譲歩] 一口でも少しでもいいから食べよう	31.2	もっと好き嫌いしないで 一口でもいいから食べてほしい	24.9
[命令] 好き嫌いせずきちんと食べなさい	18.0	また、残してる。もったいない せっかく作ったのに	17.5
[成長・発達] (ハバみたいに)大きくなれない 食べるともっと早く走れるよ	14.8	野菜嫌いは困る 栄養バランスよく食べてほしい	12.2
[栄養・健康] 栄養があるから食べなさい 丈夫なからだになるから食べなさい	13.7	まあいいや。 無理強いしてもしかたない	10.6
[疑問形] どうして食べないの?	8.3	おいしくなかったのかな? こんどは料理法を変えよう	9.6
[対人関係] 農家の方が悲しんでるよ 作った人に申しわけないよ	4.7	大きくなれば、そのうち食べられるか 私も好き嫌いが多かったから	9.4
[空想] 人参さんが食べてって言うてるよ (ウルトラマンやキューティーハニー) になれないよ	3.9	残すな! これくらい食べられなくてどうする	8.6
[受容] 食べたくない? 残していいよ	2.5	好きなものは食べるくせに 何か間食でもしたな	4.6
[交換] 〇〇をあげるから(好きなもの) 〇〇へ行けなくなるよ(好きな所)	1.9	そんなわけはないけど 食べてもなれるわけではないけど	2.6
[禁止や指示] コラ、ダメじゃない! 食べないなら外へ行きなさい	1.0		

母親の言葉(本音)⇨子どもの言葉(態度)の流れの組み合わせパターンとしては、「一口でも少しでもいいから食べよう⇨(もっと好き嫌いしないで食べてほしい)⇨あと少しでいい?⇨(いやいやながら食べる)」が3.1%で最も多かった。

食卓をめぐる母親と子どもの会話には、日常の母親の価値観や家族関係が凝縮して表れていた。母親たちの食生活に関する悩みは、第1章の「育児の気がかり」にあるよ

うに、偏食せずに栄養バランスよく食べてほしいことである。日常よくある食卓での会話で、母親のほうは命令や禁止、譲歩や交換など、何としてでも食べてもらいたいという気持ちを直接的に指し示す表現が目立った。そのため、子どものほうは、「いや! 食べたくない」と反抗的な表現が最も多く、「いやいや食べる」結果として、双方に不満感が残る様子が見られた。

お子様は()と言った	%	お子様の態度は()であった	%
食べたくない。おいしくない イヤ! いらぬ。嫌いだよ	31.4	いやいやながら食べる 少しだけ(食べさせて)食べた	32.8
そっかあ。え〜っ! はい。わかった。いいよ	23.3	困った様子。いやな顔をする ほんとは食べたくない様子	15.2
あと少しでいい? ちょっと、一口だけだよ	23.1	反抗的。ムツとしている ふてくされている	13.5
もう、おなかいっぱい ごちそうさま	13.9	平然としている 当たり前という感じ	13.4
なれないの? ほんとに?	4.0	残さず食べる がんばって取り組んだ	11.8
無言(黙っている)	1.7	素直な態度	7.0
〇〇ちゃんも残すよ	1.4	「よかった」という感じ ホッとした様子	2.2
ごめんなさい	0.7	泣く。泣きながら食べる	2.1
食べさせて! アーン(口を開ける)	0.5	フ〜ンという感じ。不思議そう	1.1
		無言(黙っている)	0.9